

月こばやしたかゆき 刊小林鷹之からの手紙



伝える力

今の政治に
思うこと

国政挑戦を決断してから
一年が経過して

絆を力に。2011年 Vol.3 [討議資料]

自由民主党
千葉県第二選挙区支部 小林鷹之事務所発行
(八千代市・習志野市・花見川区)



編集後記

アメリカの大統領には、スピーチライターと呼ばれるスタッフが複数付いています。スピーチライターとは、大統領の演説原稿を作成する人のことです。就任演説の際などは、複数のスタッフが大統領本人と密にやりとりしながら草稿を練り上げていくのが通例です。

では、日本はどうか。総理の施政方針演説などは、各省庁による作文を単に切り貼りする作業に終始しがちなのが実情です。それでは、伝えなければならないことも、なかなか伝わりません。人に何かを伝えようとする時、人から借りた言葉ではなく、たとえ下手な話し方であっても自分らしい言葉で話した方が相手に伝わるがありますよね。国民や外国との対話を通じて、お互いに信頼関係を築いていくためにも、日本の総理には、国の内外に向けて、自らの言葉で発信し、しっかりと伝え切る力を備えて頂きたいと思います。(スタッフ)

鷹之ブログ ameblo.jp/kobahawk

日々のニュースを、わかりやすく解説しながら自身の意見を述べているブログです。ぜひお読み下さい。

twitter twitter.com/kobahawk

1歳の娘のことから天気のこと食べ物のこと、気になったことをほぼ毎日つぶやいています。

ホームページ www.kobayashi-takayuki.jp

小林鷹之についてもっと知りたい、ボランティアに応募したい方、献金案内はこちらから。

小林鷹之事務所からのお知らせ

小林鷹之事務所では

- ・ボランティアをしていただける方
- ・ポスター掲示場所をご提供して下さる方
- ・ミニ集会を開催して下さる方(小林本人が伺います！)

からの御連絡をお待ちしております。

お電話またはメールにてお気軽にお問い合わせ下さい。

右下のQRコードをご利用いただいて、小林鷹之ホームページからもご連絡いただけます。

TEL:047-409-5842 FAX:047-409-5843

Email: info@kobayashi-takayuki.jp

自由民主党千葉県第二選挙区支部小林鷹之事務所

〒276-0042

千葉県八千代市ゆりのき台3-3-5

アットホームセンター第2ビル 202号室



活動報告



▲八千代の祭りにて
地元の子供たちと



▲自民党千葉県支部連合会第54回定期大会に出席致しました。



▲元米通商代表ミッキー・カンター氏と今後の日米関係のあるべき姿について意見交換しました。



▲習志野の団体に、講演させていただきました。テーマは、『国際政治の中の日本』鋭い質問が飛び交いました。



小林鷹之プロフィール

東京大学法学部卒業。平成11年大蔵省(現財務省)入省後、財政運営から国際金融に至るまで幅広い分野の政策立案を担当。在米日本大使館に出向した際、急速に変化していく国際社会の中で、日本が為す術もなく取り残されていく姿に危機感を抱き、2010年春財務省を退職。公募を経て自由民主党千葉二区支部長就任。現在36歳。

伝える力

本格的な夏ですね。初めての「節電の夏」。夏は大好きですが、小さな娘の体調を考えると心配は募ります。冷房をつけないと寝汗びっしょりですから。同じ悩みを抱える方も少なくないと思います。なでしこジャパンのように皆で力を合わせて乗り切りましょう！

さて、震災から4か月が経過しました。現地では復旧作業が懸命に進められています。しかし、瓦礫の撤去を含め、作業は山積状態で、原発の事故処理も依然として継続中です。このようなかで、一貫性を欠く政府の対応、特に総理にあるまじき軽率な発言は国民に希望を与えるどころか、絶望に拍車をかけています。

「信無くば立たず」

論語にある有名な一説。まさに今、この国が危機に瀕しているのは、政治への不信が募っているからに他なりません。不信の原因は様々ですが、特に気になるのは、今の政治に「伝える力」が欠けている点。菅総理を見れば一目瞭然です。

昨夏、消費税増税発言の即時撤回により、参院選で民主党が敗北を喫しました。これは「増税」自体に対する嫌悪感というよりも、「増税」という極めて重いテーマには到底相応しくない発言の軽さに対する嫌悪感の発露であったと思います。

何故増税が必要なのか。メリットは何か。代替手段は存在しないのか。具体的な方法やスケジュール等々。熟議を重ね、その結論を丁寧に伝える努力を怠ったことに国民が怒りを覚えたのだと思います。

あれからまだ一年しか経っておりません。

「喉元過ぎれば熱さ忘れる」。

原発事故への対応を見ても、浜岡原発の突然の停止要請、玄海原発再稼働を要請した直後の突然のストレステスト実施表明、そして先日の仰々しい総理記者会見直後に「脱原発依存は個人の考え」と急遽釈明に転じる姿。

原発政策の今後の舵取りは、単なるエネルギー政策という枠を超えて、国家戦略に関わる重要な問題です。それは、資源エネルギー問題が先の大戦へと突入する一因となった背景や、二度にわたる石油ショックの経験を踏まえれば明らかなこと。今回の原発事故を受けて、エネルギー供給の「安定性」



と「安全性」をいかに高い地点で妥結させるのか、政治に大きな責務が課される中で、総理には「脱原発」の是非について、その方針のみならず、具体的な政策と理由をも国民に向けて説明し、説得する責任があると思います。説明責任を放棄したり、一貫性を欠く発言を繰り返すのであれば、思いを伝えることなど不可能です。そんな政治家が総理の座に居座る資格は無いと私は考えます。

この「伝える力」については米国の方が優れていると感じます。9・11、イラク戦争開戦、リーマン・ショック等の大事件が生じた際は勿論のこと、政府

が重大な決断を下す場面では、必ず大統領本人による国民への語りかけが行われます。

「今は苦しい時期だ。だからこそ、我々米国人の総力を結集し、必ず道を切り拓こう。そのためには政府は、○○の方向性で、△△、□□といった政策を着実に遂行していく。」

大統領の言葉には自信と説得力があつて、多くの国民が一定の安心感を得るのに寄与していると感じます。

今、我が国では、政治が批判の嵐に晒されています。それは、政治にもっとしつかりして欲しいという気持ちの裏返し。先行きが不透明な中、日々の暮らしや子供たちの将来、そして地域や国の行く末に対して、多くの方々が不安を抱えています。だから、総理にはビジョンと覚悟を自信を持って示してもらいたい。そして、それから納得したい。これが多くの方々に共通する思いだと思います。

批判されると、都合のいい事を並べ立ててきたのが従来の政治。でもそれは逆。批判されているからこそ、耳障りであっても中長期的に正しいことを逃げずに論じていく、そんな政治を実現したい。迎合政治とは訣別し、皆様と力を合わせて未来を切り拓く姿勢を貫き、政治に信頼を必ず取り戻したい。

最後に。自民党の支部長に就任して一年が経過しました。皆様のお蔭で多くの勉強をさせて頂きました。自らの思いを一人でも多くの方の心に伝えられるようにこれからも精進してまいります。

平成二十三年七月吉日
自民党千葉県第二選挙区支部長

小林鷹之